

教育相談課だより No.17

折れない心を育てる③

折れない心を育てるためには、自尊感情を育てること、中でも基本的自尊感情に焦点を当てることが有効と考えられます。
(教育相談課だより no.16 参照) 基本的自尊感情を育てるためには、アドラー心理学の考え方が参考になると考えられます。

アドラー心理学とは、アルフレッド・アドラーによって創始された心理学の一大理論体系です。アドラー心理学は、勇気づけの心理学とも呼ばれており、技法としての「勇気づけ」を重視しています。「勇気づけ」とは、「相手の存在を認め短所や欠点よりも長所やリソースに着目し、他者との比較ではなく、その児童生徒なりのささいな努力や成長に目を向ける態度や行動のこと」と定義できます。

私たち教員は、児童生徒を正しく成長させたいとの思いから、どうしてもできていないところや間違っているところに焦点を当て、指導したくなるものです。そんなときに、ついついしてしまふことが、「ダメ出し」です。「ダメ出し」を受け続ける児童生徒の自尊感情が傷つくことは、容易に想像がつくことでしょう。アドラー心理学の考え方は、「ダメ出し」をしないこと、その逆の対応(ヨイ出し)をすることです。例えば、こんな



ことがありました。清掃後、授業を始めようとしたときに、黒板の掃除が不十分だったので、「今日の黒板掃除は誰だ?全然きれいになってないよ!やり直し!」のようなことを言ってしまいました。こんなときは、だいたい雰囲気が悪くなるものです。別の日に黒板がとてもきれいに掃除できているときがありました。ついうれしくて「うわー、みんな見て!黒板がすごくきれいで、気持ちいいよね!」等と声をかけました。すると、次の日から黒板はずっときれいでした。できていないところに焦点を当て指導し、雰囲気を悪くしなくても、できているところや頑張ったところを勇気づけることで、子どもたちの行動を変えることはできるのです。

茨城県教育研修センター教育相談課では、「褒める」ことが社会的自尊感情を、「勇気づける」ことが基本的自尊感情を育てると捉えています。もちろん、褒めて社会的自尊感情を育てることが悪いわけではありません。褒められることを求めている児童生徒もいるからです。近藤卓氏は、「本来の教育の醍醐味を感じられることの一つは、基本的自尊感情が育った児童生徒の心に火を付けてやる気を起こさせ、その成長ぶりを見届けること」「十分に基本的自尊感情が育っていない現代の児童生徒を危惧し、基本的自尊感情を育むようなとても時間のかかる地道な働き掛けが必要」と訴えています。児童生徒をしっかりとアセスメントし、意図した関わりが教師には求められているのだと思います。

教育相談課の研究については、下記に掲載してありますので、詳しく知りたい方はご覧下さい。